

未来につながる 安城のこころ

Linking the Anjo spirit to the future



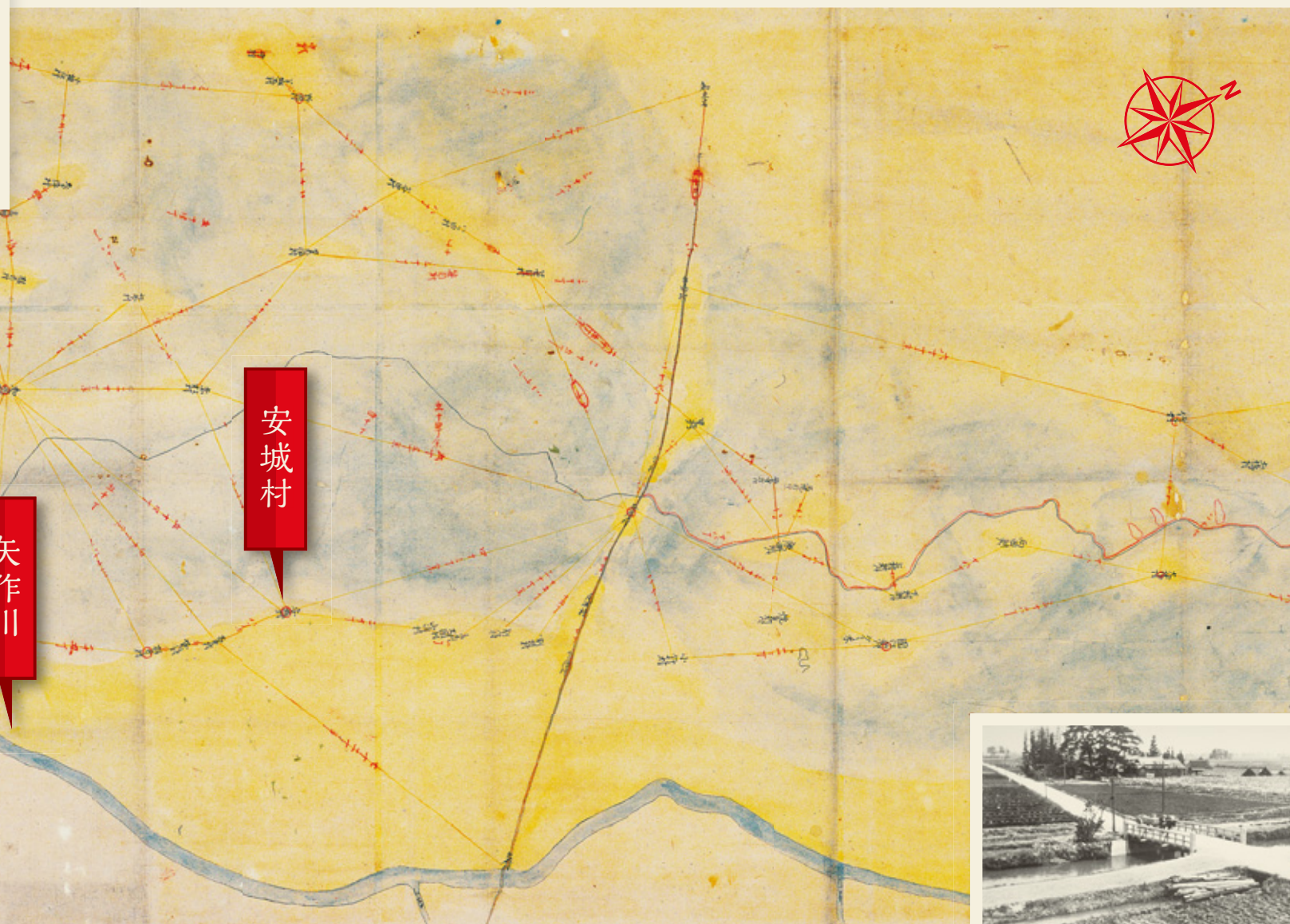
明治用水と都築弥厚
新美南吉

*Meiji Canal and Yako Tsuzuki
Nankichi Niimi*



かつての明治用水本流※
Former mainstream of the Meiji Canal

都築弥厚開削計画図(天保3年)※
Excavation plan drawn by Yako Tsuzuki (1832)



明治用水と 都築弥厚

Meiji Canal and
Yako Tsuzuki

Dreaming of a fertile Anjo

The Meiji Canal is an agricultural water channel whose source is the Yahagi River, and it irrigates approximately 5,500 hectares of farmland in Anjo and the surrounding areas. Yako Tsuzuki planned the large-scale development of new fields in these areas. His achievements provided a basis for the prosperous agricultural industry in Anjo, which is called the "Denmark of Japan".



かつての中井筋※
Former Nakaisuji

都築弥厚の生涯

昭和2年 (1927)	三河国碧海郡和泉村(現在の安城市和泉町)に生まれる
文政10年 (1827)	新開計画を幕府へ出願
天保4年 (1833)	幕府から計画の一部許可が出たが、9月10日病没
天保6年 (1835)	新開計画の取り下げ
明治12年 (1879)	岡本兵松、伊豫田与八郎らの計画を基に開削工事開始
明治13年 (1880)	明治用水通水開始
大正2年 (1913)	従五位が贈られる

都築弥厚銅像
(弥厚公園)
Bronze statue of Yako Tsuzuki
(in Yako Park)



豊かな安城を夢見て

明治用水は、矢作川を水源とし、愛知県のはぼ中央に位置する安城市を中心に、約5,500 haの農地をかんがいで灌漑しています。かつて碧海台地は水が不足しており、安定した耕地の維持が難しかったため、台地上に造られた溜池の水を巡り村々の対立が多くありました。この苦境を救うため、矢作川の水を導き、大規模な新田開発を行うと計画したのが都築弥厚でした。計画が許可された直後に弥厚は病没してしまい、計画は取り下げられました。明治13年(1880)に明治用水は完成。碧海地域の土地は飛躍的に開発され、大正末から昭和初めにかけて、「日本デンマーク」といわれるまでの農業地帯となりました。弥厚の夢は明治用水として実現し、今日の農業の基盤を築くこととなりました。

昔の農業の様子※
Farming in olden times



※…明治用水土地改良区より提供

子どもの頃からの夢を
安城で叶えた新美南吉

童話『ごんぎつね』などで知られる新美南吉は、昭和13年（1938）4月に安城高等女学校の教師として赴任し、英語や国語などを担当しました。また、着任時に入学した19回生の担任として、卒業までの4年間を受け持ちました。南吉は昭和14年（1939）4月から現在、安城市新田町で下宿を始め、執筆活動にも熱心に取り組みました。昭和16年（1941）には初の

単行本『良寛物語 手毬と鉢の子』が出版され、その後も次々に代表作を執筆。翌17年には初の童話集『おぢいさんのランプ』が出版され、幼い頃からの夢であった童話作家となりました。29年7か月という短い生涯の中で数多くの作品を残した新美南吉。作家として、教師として、安城で過ごした5年間は、最も輝いた青春時代でした。

安城の新美南吉

Nankichi Niimi
in Anjo



安城高等女学校19回生入学記念写真
(昭和13年5月25日)

Commemorative photo : the 19th class of
Anjo Girls High School (May 25, 1938)



岩津天神への遠足
(昭和16年3月10日)

Short trip to the
Iwazu Tenmangu Shrine
(March 10, 1941)

Nankichi Niimi realized his childhood dream in Anjo

Nankichi Niimi is known for "Gon, the Little Fox" and other fairy tales. He spent five years in Anjo as a teacher at Anjo Girls High School. During these years, he enthusiastically wrote stories and published his first fairy tale book, "Grandfather's Lamp", thereby realizing his childhood dream to become a fairy tale writer.

都 築 弥 厚 ゆ かり の 地 明 治 川 神 社

Meijigawa Shrine is closely connected to Yako Tsuzuki

「明治川」といういかにも弥厚にふさわしい名前の神社。

用水守護のため、水に縁の深い三柱の神を中心に、
明治用水開削の功労者とともに弥厚が奉られています。



水 を 大 切 に す る こ ころ 水 の か ん き ょ う 学 習 館

Aquatic Environment Learning Center - Valuing Water Resources

明治用水を通して、水・農・食・環境について
楽しみながら学べる機会を地域や子どもたちに提供しています。
いつの時代も水の大切さを忘れないために。



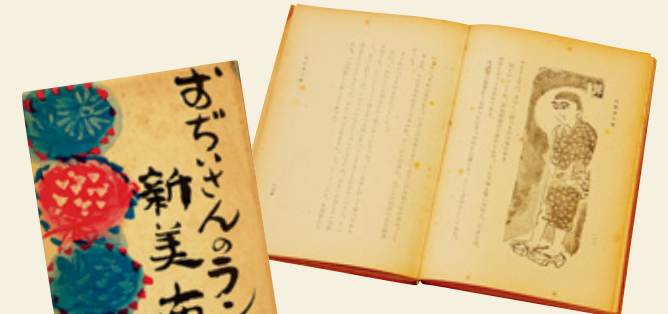
豊かな感性そのままに 南吉が最も輝いた安城時代の作品たち



童話集
牛をつないだ椿の木
昭和17年(1942)執筆
昭和18年(1943)発行
Fairy tale book "The Cow
Tied to a Camellia Tree"



伝記
良寛物語
手毬と鉢の子
昭和16年(1941)執筆・発行
Bibliography "The Tales of Priest Ryokan
- a Handball and an Alms Bowl"



童話集
おぢいさんのランプ
昭和15年(1940)執筆／昭和17年(1942)発行
Fairy tale book "Grandfather's Lamp"

倉でランプを見つけてきた東一君。東一君のおじいさんは、そのランプを見てある話を始めます…。東一君の祖父が自身を語ったこの物語は、最初の童話集のタイトルになりました。装丁と挿絵は世界的な版画家の棟方志功によるものです。



童話集
花のき村と盗人たち
昭和17年(1942)執筆／昭和18年(1943)発行
Fairy tale book "Hananoki Village and the Thieves"

花のき村にやってきた5人の盗人たち。ずっと盗人をしてきたかしら以外は、盗人になりたての弟子たちでした…。盗人のかしらが花のき村の「心の善い人々」に信用されることで「美しい心」を取り戻し、改心するまでの不思議な物語です。



画帖
六根晴天
昭和14年(1939)執筆
Sketchbook "Rokkon Seiten"



詩集
雪とひばり
昭和14年(1939)執筆
昭和17年(1942)発行
Poetry "Snow and Skylark"

大正2年 (1913)	大正6年 (1917)	大正10年 (1921)	昭和7年 (1932)	昭和13年 (1938)	昭和14年 (1939)	昭和16年 (1941)	昭和17年 (1942)	昭和18年 (1943)
7月30日、愛知県知多郡半田町(現半田市)に生まれる 本名渡辺正八	11月、生母りる病没	7月、りるの実家・新美家の養子となる	1月、児童雑誌『赤い鳥』に『こん狐』掲載	4月、安城高等女学校に赴任	4月、安城高等女学校に赴任	10月、単行本『良寛物語 手毬と鉢の子』出版	『牛をつないだ椿の木』『花のき村と盗人たち』などの代表作を執筆 10月、童話集『おぢいさんのランプ』出版	病状が悪化し学校を欠勤 2月、安城高等女学校を退職 3月22日、喉頭結核のため29歳7か月で永眠

新美南吉の生涯

新美南吉の

まちづくり

Conveying the traces of
Nankichi Niimi

「南吉の世界」を
感じるまちに

「南吉が青春を過ごしたまち 安城」をキャッチフレーズに、南吉のまちづくりを進めています。JR安城駅前商店街を中心に、南吉や南吉作品を題材とした「南吉ウォールペイント」をはじめ、新美南吉生誕百年を記念して設置されたモニュメント「南吉回想の窓」、ベンチに座って本を読んでいる姿をイメージしたオブジェ「南吉語らいの椅子」など、歩く先々で南吉の世界観や、そのあたたかさに触れることができます。

A city where people can feel the "world of Nankichi"

We are developing a city filled with the traces of Nankichi under the catchphrase : "Anjo, the city where Nankichi spent his young adulthood". People can feel the world of Nankichi and its warmth in many places across the city through the "Nankichi Wall Paintings", monuments, objects, etc.

僕と一緒に
ゆっくり
していませんか

読書をしている南吉を
イメージしたオブジェ
「南吉語らいの椅子」
"Nankichi's bench of exchange",
an object that reflects
the image of Nankichi reading a book

安城高等女学校の校舎を
イメージしたモニュメント
「南吉回想の窓」
"Nankichi's window of recollection",
a monument that reflects the image of
Anjo Girls High School





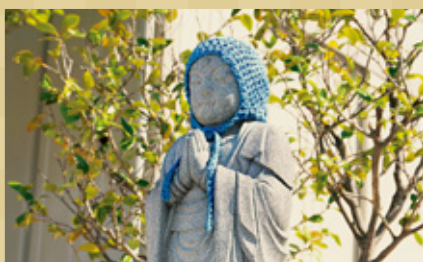
南吉の下宿先(新田町)
House where Nankichi lodged
(Shinden-cho)



南吉のうた庭園(桜町小学校)
Nankichi Poetry Garden
(Sakuramachi Elementary School)



貝殻詩碑(安城中部小学校)
A monument of Nankichi's poem about seashells
(Anjo Chubu Elementary School)



花ノ木地藏(花ノ木町)
Hananoki Jizo statue
(Hananoki-cho)

南吉が青春を過ごしたまち 安城



百姓家詩碑(新田小学校)
A monument of Nankichi's poem about a farmhouse
(Shinden Elementary School)



ででむし詩碑(桜町小学校)
A monument of Nankichi's poem about snails
(Sakuramachi Elementary School)



牛詩碑(安城公園)
A monument of Nankichi's poem about cattle
(Anjo Park)



新美南吉生誕百年記念碑(安城高等学校)
A monument commemorating the 100th anniversary
of Nankichi's birth (Anjo High School)

市内の各所には、今なお残る南吉ゆかりの場所や
新たに整備され、親しまれているスポットがたくさんあります。
まちのここにも、あそこにも「南吉の世界」が彩っています。